

ホッケーコート1面 101.4m×63.0m=6,388㎡

ホッケーコート（2）

概要

- ・ホッケーの歴史は、紀元前2500年頃の古代エジプトの墳墓の壁画にホッケーをしている姿が描かれている。また、古代エチオピアや新大陸の発見以前の南米でアステックインディアンがホッケーの原形である競技をしていた証拠が残されている。
- ・近代ホッケーは、19世紀半ばにイギリスのクリケット選手たちが試合のできない冬場に始めたのが基礎といわれている。各々独自のルールで試合がおこなわれていたが、1886年にイギリスでホッケー協会が発足し、統一ルールのもとでおこなわれるようになった。
- ・我が国には1960年に英国人牧師により伝えられた。1923年には「大日本ホッケー協会」が設立し、後の1980年に現在の「(社)日本ホッケー協会」となったものである。

寸法

- ・フィールドは長方形とし、サイドラインの長さ91.4m、バックラインの長さ55.0mで囲まれた領域である。
- ・領域内にバックラインと平行にセンターライン、バックラインから22.9mの位置に「通称23mライン」を実線で引く。
- ・バックおよびサイドラインの外側は、フィールドと同質な仕上げ舗装の範囲とし、その外側に障害物のない走り抜けるエリアが必要である。競技規則には、最小幅と推奨幅が記載されている。

		フィールドと同等の仕上	さらに外側	計
バックライン側	最小値	2m	1m	3m
	推奨値	4m	1m	5m
サイドライン側	最小値	1m	1m	2m
	推奨値	3m	1m	4m

備考：同等仕上材は材質が違ってよい。さらに外側1mの部分は材質に特定はない。

勾配

- ・フィールドの勾配は、特に規定はないが表面排水を考慮のうえ、できるだけ平坦に仕上げる。
- ・勾配は0.5%を標準とし、0.3%~1.0%の範囲で決定することが多い。クレイ系舗装の場合は、上限勾配を0.7%程度とすることが望ましい。
- ・他の競技と兼用するフィールドの場合は、他の競技のルールも考慮して決定する。

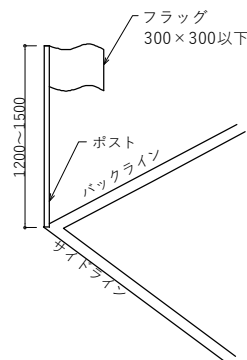
方位

- ・恒風方向等の立地条件を考慮して決定することも必要である。
- ・メインの観客席は、太陽を背にするように西側に設置することが望ましい。

附属品

フラッグポスト

- ・フラッグポストは、フィールドの各コーナーに立てられ、その高さは1.2m以上、1.5m以下とする。
- ・フラッグポストは、危険なものであってはならない。取り付け部がバネ式のもの望ましい。
- ・フラッグは、縦横ともに30cmを超えてはならない。



ゴール

- ・ゴールは、コーナーフラッグポストから等距離に立てられた垂直な2本のゴールポストと、その頂点を結ぶ水平なクロスバーとからなる。
- ・ゴールポストの内幅は3.66m、クロスバーの高さはその下端からグラウンド面まで2.14mとする。
- ・ゴールポストとクロスバーは、矩形断面とし、正面幅は5cm、奥行きは5~7.5cmとし、白色でなければならない。
- ・サイドボード、バックボードは、ゴールネットの内側裾まわりに取り付けられる。その高さは、グラウンド面より46cmとし、ボードのうち面は濃い色のものとする。
- ・ネットは、バックボードとサイドボードの後ろ側に吊り下げるように取り付けられる。
- ・ネットのバックボード、ゴールポストへの取り付け間隔は、15cm以内とする。

